

令和3年度

光が丘さくら幼稚園経営計画

練馬区立光が丘さくら幼稚園
園長 檀原 雅恵

年長34名年少33名計67名で4月よりスタートし、新型コロナウイルス感染症の終息が見えずに始まった令和3年度である。今までの通常の幼稚園生活とは違い、感染症拡大防止対策として距離を置くこと、マスクをして表情が見えないこと等、幼児期に必要な人との関わりが制限されることが多い。この状況でもできる他者との体験を積み重ね、多様な人との関わりの中で、「幼児期は人格形成の基礎を培う重要なものである」ことを念頭に、教職員が、それぞれの個性を生かし温かい教育活動に取り組み、教育の質を高めていく。保護者、地域の方々に幼稚園が支えられていることに感謝し、幼稚園の教育への理解を得るための努力を惜しまず、子供たちを共に育てていく意識をもっていただけるよう力を尽くし、一人一人の幼児が、自己肯定感をもち「先生大好き」「友達大好き」「幼稚園大好き」「自分が大好き」と思える園を目指す。

また、今年度は練馬区教育委員会教育課題指定研究園として研究発表を行う。理論だけではなく実践から導くより充実した保育を目指していきたい。

1 目指す幼稚園

(1) 教育目標

○人権尊重の精神を基調とし、心身の健全な育成を図り、主体的に活動する幼児の育成を目指すため、次の目標を設定する。

教育目標

- ・自分で考えて行動する子ども
- ・思いやりのある子ども
- ・明るく元気な子ども

教育目標を受けて目指す幼稚園を以下のようにする。

今年度の目標

『多様な人と関わり、みんなが笑顔になれる幼稚園を目指す』

- 幼児が夢中になって遊ぶ体験を重ねる中で、学びの芽生えを培うとともに、好奇心や探究心を養い自ら考え行動する幼稚園
- 幼児一人一人が自己を十分に発揮し、大好きなひと、もの、こととの関わりが深まる幼稚園
- 一人一人の育ちのペースを大切に、学びのプロセスを読み取り適切な環境構成、援助を行い、幼児教育の専門家として意欲的に研修に取り組み、高め合う教員、「チームさくら」として助け合う教職員がいる幼稚園
- 幼稚園、保護者、地域が子供の健やかな成長のために、関係性を築き、共に幼稚園の教育活動を推進し育てる喜びを感じる幼稚園

2 中期経営目標（～令和3年）

（1）心揺さぶられる豊かな体験を充実させ「主体的・対話的で深い学び」のある幼児教育の実践

- ①豊かな感性と感覚・表現力を育む直接体験や自然体験ができるような環境の工夫
- ②興味のあるひと、もの、こととじっくり向き合い夢中になって遊べるための三つの“ま”（時間、空間、仲間）の保障
- ③健全な身体の成長を促す、基本的な生活習慣の丁寧な指導と心身の成長を促す遊びの工夫

（2）主体的、協動的に教育活動に取り組み“子供の笑顔”に喜びを感じる教員の育成

- ①同僚性・共感性の高いチーム保育の推進と教師一人一人の自己発揮
- ②保護者や地域に園の教育の取組やプロセス、成果の可視化、連携を推進する教員
- ③グローバル化、情報化に対応できる力を育むことを意識する教員

（3）幼稚園としての子育て支援の推進

- ①地域、保護者の幼稚園や教師への信頼感・安心感の構築
- ②子育て相談事業の推進及び関係諸機関との連携
- ③地域とつながり地域の教育力を幼稚園の教育に活用
- ④未就園児やその保護者に期待され頼りにされる取組の工夫
- ⑤在園児預かり事業の実施

3 令和3年度の達成目標と具体的方策

（1）自ら環境に関わり、主体的に遊びを楽しむ幼児

- ・ひと、もの、ことの三つの“ま”（時間・空間・仲間）にじっくり向き合い、幼児が夢中になって遊ぶことで、学びの芽生えを培うとともに、好奇心や探究心を養い自ら考え行動する、身近な環境に主体的に関わり、諦めずにやり遂げる楽しさを感じ自己肯定感へつなげる**保育実践における環境構成と援助・指導の工夫**（週案・学年会・日々の記録・園内研修会等から保育の準備へ 幼稚園教育要領・令和の日本型学校教育参考 毎日）
- ・「先生大好き」「友達大好き」「幼稚園大好き」「自分が大好き」を実現する保育を展開し、自分自身や友達を尊重する気持ちや態度を養う。様々な特性の友達への関わりでは、**教師がモデル**となり認め合い受け止め合える集団を形成し、大切な存在であることを認識できるようにする。一人一人の特性に応じたきめ**細やかな指導体制の構築**（週案・学年会・日々の記録）
- ・幼児が毎日喜んで登園し一人一人のペースで、元気にのびのび過ごせる**安心・安全・安定した生活の流れ**（週案・学年会・日々の記録）
- ・「自分も大事」「友達も大事」「命が大事」と他者理解を意識し人権教育を進め、**様々な人との関わり**を充実させ、心地よい関係性を構築する工夫。（週案・学年会・個別の指導計画・行事の起案等 毎日）
- ・個と集団の学びのプロセスを読み取りながら、記録の中から**幼児理解と次なる環境構成・援助の工夫を導き出す**（週案・学年会・日々の記録・園内研修会 毎日）
- ・幼児期の育みたい3つの資質・能力を目指し、幼児期の終わりまでに育てて欲しい姿（10の姿）を意識した**指導計画の作成と保育の展開**（週案・学年会・日々の記録・園内

研修会・幼稚園教育要領参考)

- ・身近な人と心を通わせたり話に耳を傾けたりし、言葉への関心を高め、自分の考えを相手に伝えたり聞いたりして、**言葉による伝えあいの喜びを感じる指導・援助の工夫** (週案・学年会・日々の記録)
- ・今年開催のオリンピック・パラリンピックに向けて、競技、国際理解、障害者理解、日本の伝統文化への関心が高まる**環境の工夫と援助**

(2) 主体的、協働的に教育活動に取り組む喜びを感じる教職員集団「チームさくら」

- ・多様な障害をもつ幼児の受け入れとなり、特別支援教育の推進を図るため、特別な配慮を必要とする幼児の発達に即した個別指導計画を作成し、**園全体の協力・支援体制を整えきめ細やかな支援を行う**。また、関係諸機関との連携や協力を図りつつ、一人一人のニーズに合わせた支援を行い、**保護者の安心感**につなげていく。更に、報告・連絡・相談・確認の徹底で、正確な**情報共有、伝達、タイミングを逃さぬ対応**で築くチームの信頼関係 (介助員との連携・指導方針の共有、個別の支援計画等 毎日)
- ・“幼児の笑顔と育ち”を共通の目的とし、互いに支え合い高め合い、**悩みや課題を共有し相談でき協働的な関係性**の構築
- ・持ち味を活かし合い主体的に組織の一員として役割を意識し遂行すると共に、日々の保育で生かす「**一教師一得意分野の発揮**」(月に1回は発揮)
- ・教職員が、自らの資質向上を図り、記録の充実から保育の更なる充実へPDCAサイクルによる**全体の保育の質の向上**を目指す (園内研究 日々の記録 等 毎日)
- ・ヒヤリハットの意識をもち危機管理マニュアル、地震対策の手引き、不審者対応の手引き学校情報セキュリティ対策ハンドブック、新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～、練馬区立学校(園)改訂版感染予防のガイドライン(新型コロナウイルス感染症)等を活用して**一人一人の危機管理の意識の向上**(月に1度は点検)
- ・**働き方改革**を積極的に推進し、教育の充実のために健全な心身を保持し、意欲をもつことのできる環境のためにタイムマネジメントの意識化を図る(毎日)

(3) 幼児と子育て仲間と共に育つ喜びを感じる笑顔溢れる保護者・地域

○保護者との共育をつなげるために

- ・信頼関係を築き、幼稚園と家庭と**共に育てる意識**の醸成
- ・子供たちの育ちを分かりやすく伝えるかわら版等の掲示物、クラス便り等の配布物、学級懇談会の工夫、オンラインの活用等で**教育内容の分かりやすい伝え方の構築**(2週に1回)
- ・保護者会、保育参加、参観、さくらトーク・こあらトーク・バースデートーク(様々な方法の園長とのグループトーク)などを通し、**園の方針や幼児の育ちを知らせ理解と協力を得る**(月に2回)
- ・サークル活動や、保護者向けの講演会、ボランティア活動、保護者会などを通して**保護者同士をつなげ、共に育てる関係性の向上の支援**(学期に1回)

○地域とつながるために

- ・地域未就園児親子への“集いの場”としての親子さくらんぼ会、空き教室の施設開放、「みんなともだちの日」の開催、等による**子育て支援**(月に2回以上)

- ・学校支援コーディネーター・学級連絡員の活用、学校評議員とのつながりにより学校地域連携事業の推進で**地域の人材と繋がり教育力を向上（月に1回）**
- ・近隣の幼保小の連携の充実を図ることで円滑な接続を目指す。また、保・小・中・高校・高齢者施設の交流連携により**公立幼稚園の保育を積極的に発信し**理解を得る。
- ・民生委員、団地自治会等と学校評議員以外に交流機会をもち、**地域の中での幼稚園としての存在を高める。（学期に1回）**

4、いじめ体罰への組織的な対応

集団生活のルールを分かるように伝え内面を揺さぶり自分から行動する幼児を育て、道徳性の芽生えを培う指導の充実を図る。

- ① 園の生活を楽しみ自分の力で行動できるきめ細かな指導
- ② 人への信頼感をもつとともに情緒の安定を図る
- ③ 規則正しい生活習慣を身につけ健康な体で心地よく生活を援助
- ④ ルールや約束の意味を理解し自分の気持ちを調整しようとする力を育てる
- ⑤ 友達の話の聞いたり思ったこと感じたことを話したりすることを楽しめる援助・指導
- ⑥ 困っている友達や自分と違う考えの友達を受け止め思いやりをもって接する指導
- ⑦ 教師が幼児のモデルになることを意識した指導
- ⑧ 人権の尊重の理念である自分の大切さと共に他の人の大切さを認める指導
- ⑨ 多くの目で見ると、情報の共有。一人で悩まず管理職とともに教職員で連携し早期解決を図る
- ⑩ 保護者に対して幼児同士のいじめにつながる言動や対応等について啓発図り、共に育てる意識

5 評価

(1) 園・学級経営における自己の振り返り（年2回 長期休業日前）

(2) 教員による幼児の変容における評価

①期（4月～7月）（8月～12月）（1月～3月）指導記録

②週ごとの指導記録

・経験内容 ・活動内容の意味付けを明確にする ・研究テーマを視点に評価・反省
園内研究のテーマ

『遊びの充実に向けた環境の工夫—日々の記録を生かして』

③ 行事終了後、中間・年度末評価

(3) 保護者による評価

① 行事終了後のアンケート、懇談会、個人面談、園長とのトーク

② 年度末アンケート

(4) 学校関係者評価委員会（学校評議員会）

① 年間3回の実施

・3回目の評議員会にて学校関係者評価を行う。

(5) 評価の結果公表 3月中旬